

対テロ戦とアフガニスタンの安定化
日本はどう向き合うべきか？

日本の50億ドル支援は失策

オバマ米大統領の一番の頭痛の種はアフガニスタンにある。米軍は9・11の報復攻撃としてアフガニスタンを空襲したが、地上戦では米兵を使わなかった。戦ったのは、実はアフガニ人の九つの軍閥だった。報復攻撃は11月もたらずに決着し、タリバン政権は崩壊した。「戦争は終わった」と思ったが、軍閥たちが覇権争いを始め、内戦になった。軍閥たちは武力も経済力も中央暫定政権を凌駕（りょうごう）しようとしていた。そこで政治的な交渉で武装

長崎大リレー講座 寄稿④

東京外国語大大学院教授

伊勢崎賢治氏

解除をし、中央政府に権力を集中させようと考えた。この武装解除を日本がやることになり、僕が担当した。日本は政府開発援助（ODA）予算として約100億円を使い、約2年間かけて武装解除を完了させた。軍閥たちはわれわれがいなくなればタリバンが戻ってくると言って武装解除に抵抗した。実際、力の空白が発生し、タリバンが戻ってきた。現在、国土の8割以上がタリバンの実効支配下にある。これに対する米国の戦略はブッシュ時代と基本

的に変わらない。当初、米軍を1万7千人増派し、さらに3万人増派した。一方で、米国民を納得させるため、撤退時期を明示した。軍事戦略的には完全に間違っていたが、そうせざるを得ないくらいに政権が窮地に陥っている。米国の戦略は、パキスタン軍との狭み撃ちを前提としている。ところがパキスタン国民は徹底した反米で、国内にテロ組織がある。核保有国でありながら内側が崩壊した。破綻（はたん）した国家だ。この核がテロ組織に渡れば、次の9・11は核攻撃になる。そこが心配でオバマ大統領はブラハ宣言をした。日本はインド洋の給油活動の代わりに、オバマ・鳩山合意でアフガン支援に5年間で50億ドルを出すことになった。しかしアフガニスタンは「人類史上最強の麻薬国家」であり、破綻国家だ。われわれの血税はテロリストに渡る可能性がある。日本が当事者としてアフガニスタンを考えなければいけないのは、同盟国である米軍が苦勞しているからだけではない。核がテロリストに渡ったなら、日本も標的になるかもしれない。間違った税金の使い方をやめさせるような世論ができることを望む。